

表6 1年目研修医におけるこの1カ月間に起きた変化

変化	男性 (N = 50)	女性 (N = 41)	全体 (N = 91)
大きな病気やケガをした	1 (2.0)	2 (4.9)	3 (3.3)
交通事故を起こした (人身事故)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
交通事故を起こした (物損事故)	0 (0.0)	1 (2.4)	1 (1.1)
医療事故を起こした	2 (4.0)	0 (0.0)	2 (2.2)
医療事故を起こしそうになった	16 (32.0)	15 (36.6)	31 (34.1)
病院で起きた事故について、責任を問われた	0 (0.0)	1 (2.4)	1 (1.1)
診療上の duty を達成できなかった	10 (20.0)	8 (19.5)	18 (19.8)
患者とのトラブルがあった	2 (4.0)	5 (12.2)	7 (7.7)
同僚とのトラブルがあった	3 (6.0)	1 (2.4)	4 (4.4)
指導医とのトラブルがあった	3 (6.0)	3 (7.3)	6 (6.6)
セクシャルハラスメントを受けた	0 (0.0)	2 (4.9)	2 (2.2)
仕事上の差別, 不利益な取扱いを受けた	3 (6.0)	6 (14.6)	9 (9.9)
勤務形態に変化があった	14 (28.0)	13 (31.7)	27 (29.7)
指導医が変わった	22 (44.0)	15 (36.6)	37 (40.7)

人数 (%)

3.5日であり、休日日数は 4.0 ± 3.7 日であった。1カ月の夜間当直回数は 3.7 ± 1.8 日であった。

本研究の1年目研修医のライフスタイル得点は、男性が 4.4 ± 1.4 点と女性(4.7 ± 1.2 点)と有意差がなく、ライフスタイル得点評価も、男女間に有意差はなく、ライフスタイルが「不良」な研修医は全体で48.1%であった。この結果は、一般的な日本人のライフスタイル得点の評価と差がなかった¹⁴⁾。前述の2004年の調査では、ライフスタイル得点評価が不良な研修医の割合が全体で61.1%となっていたことから、1年目研修医のライフスタイルは改善傾向にあると考えられる。

旧労働省が勤労男性10,041名、同女性2,175名を対象として行った調査結果¹⁵⁾では、ストレスの原因と考えられる因子のうち男性の「心理的な仕事の負担」の素点の平均値は量、質ともに女性よりやや高い。2004年に著者ら⁴⁾が実施した前述の1年目研修医では、女性は、男性に比べて、ストレスの原因と考えられる因子のなかで「心理的な仕事の負担感(質)」の素点平均が有意に高く、ストレスによっておこる心身の反応のなかで「活気」の素点平均が有意に高かった。しかし、本研究の1年目研修医では、「心理的な仕事の負担(量)」、「同(質)」、「仕事のコントロール度」をはじめとしたストレスの原因と考えられる因子のすべての項目、さらに「上司からのサポート」をはじめとしたストレス緩和因子のすべての項目の素点平均について有意な男女差はなかった。一方、ストレスによっておこる心身の反応の素点については「活気」、「いらいら感」、「疲労感」、「不安感」および「抑うつ感」の素点平均には有意な男女差はなかったが、「身体愁訴」の素点平均は、男性が女性より有意に低くなっていた。

研修初期においては、研修医は診察、検査の進め方をはじめとして上司に頻繁に相談し、また上司は共同主治医として責任をとることが多く、上司との関係は精神健康度を大きく左右するものと考えられる。したがってス

トレス緩和因子のひとつである「上司からのサポート」の素点は、新医師臨床研修制度において指導医要件を満たしている上司であるか否か、および指導医の業務上の負担のパロメーターにもなりうると推測される。本研究の1年目研修医でも、前述の2004年の調査結果⁴⁾と同様に「上司からのサポート」の素点平均は、男女とも、旧労働省の調査結果¹⁵⁾と差がなかった。

研修医のストレス特性は、研究職、事務職、製造業および工場勤務者に比べて、高い質的・量的負荷と著しく低い裁量度・達成感が特徴であることが報告されている²¹⁾。本研究の1年目研修医は、旧労働省の調査結果¹⁵⁾と比較して、男女とも「心理的な仕事の負担」の素点平均は量、質ともに高いが、「職場の対人関係でのストレス」の素点平均が低く、「働きがい」の素点平均が高く、ストレスを緩和する「同僚」および「家族や友人」からのサポートの素点平均および「仕事や生活の満足度」の素点平均が顕著に高かった。また女性研修医では「疲労感」、「抑うつ感」の素点平均が高かったが、「活気」の素点平均も高く、男女ともに「身体愁訴」の素点平均が低くなっていた。これらの結果を用いて仕事のストレス判定図から読み取った「総合した健康リスク」は、男性研修医が98.3%、女性研修医92.7%であり、全体的に問題となるレベルではなかった。

1年目研修医と研修医以外の勤務医の職業ストレスの相違についてはよくわかっていない。そこで本研究の男性の1年目研修医の職業ストレス結果を、最近、著者らが調査した大規模自治体病院の研修医以外の男性勤務医²³⁾と比較すると、ストレスの原因と考えられる因子「仕事のコントロール度」の素点平均は低かったが、「心理的な仕事の負担(量)」および「心理的な仕事の負担(質)」の素点平均も低かった。またストレスによっておこる心身の反応では「活気」の素点平均が高く、「イライラ感」、「疲労感」および「身体愁訴」の素点平均が低く、ストレス緩和因子の「同僚からの支援」の素点平均が高くなっ